

第3回 周南市スマートシティ推進協議会 議事要旨

■日 時：令和4年2月22日（火）15:00～11:30

■場 所：周南市役所 本庁舎 1階多目的室

■出席者：以下表の通り

所属・団体名	役職	氏名	区分	出欠
東京大学大学院 工学系研究科	教授	羽藤 英二	学識経験者	出席
徳山大学 福祉情報学部	准教授	児玉 満		出席
徳山工業高等専門学校 情報電子工学科	准教授	柳澤 秀明		欠席
徳山商工会議所		船井 辰郎	関係団体 を代表する者	出席
周南市社会福祉協議会	地域福祉係長	金池 聡志		出席
周南市体育協会	事務局主任	砂田 優一郎		出席
周南市コミュニティ推進連絡協議会	副会長	加藤 洋	コミュニティ組織 を代表する者	欠席
周南市コミュニティ推進連絡協議会	監事	黒神 充久		出席
山口県未来技術活用統括監		田中 貴光	オブザーバー	出席
周南市 ICT 推進アドバイザー		藤原 孝幸		出席

■要 旨

1. 開会

(事務局)

- ・ 委員定数につきまして、現地のご出席が5名、オンラインでのご出席が1名で委員総数8名中6名のご出席をいただいている。周南市スマートシティ推進協議会設置要綱第6条の規定により本会議が成立していることを報告させていただく。
- ・ 徳山工業高等専門学校の柳澤秀明様と周南市コミュニティ推進連絡協議会の加藤洋様は本日ご欠席である。
- ・ 会議の開催にあたり、本市情報企画課長の浴井よりご挨拶を申し上げます。

2. 挨拶

(事務局 情報企画課長 浴井)

- ・ 本日は大変お忙しいところ周南市スマートシティ協議会にご出席いただき感謝する。

- ・ 前回の第2回協議会では、モデル地区における取組の方針案やスマートシティの実現に向けたまちづくりの進め方等について協議していただいた。
- ・ 本日の第3回協議会では、これまで行ったワークショップおよびアンケートの報告、スマートシティの実現に向けた体制などを議題としている。
- ・ 今年度からスタートしたスマートシティ推進協議会は、今回が本年度最後となる。皆様の忌憚ないご意見を賜りますようお願いしたい。

<委員の紹介と委員の挨拶>

(会長)

- ・ リモートでの参加ということで、行き届かないところがあるかと思うが、ご容赦いただきたい。
- ・ 前回から地元でワークショップなどをさせていただいたあと、なかなかコロナで充分にその後のフォローが出来ていないが、アンケート等や企業様へのヒアリングなども積み重ねて、今日の場となっている。皆様からぜひ活発なご意見をいただけたらと思っている。
- ・ 議事のひとつ目、最初にワークショップの報告を事務局からご説明よろしくお願ひしたい。

(事務局)

<資料説明>

(会長)

- ・ ワorkshopに参加された方もこの中におられると思う。アンケートもまだ十分に整理できていないと思われるが、是非この地元から出てきた意見に対して、これはどうなっているのか、このような件も出ていたがどうかなどのご意見があれば、会場からどなたからでも結構だが、いかがか。
- ・ 事務局の方からアンケートとワークショップを通じて、特にこの意見が少し気になっている、これは重要なのではということや、ここはどうかというようなところあれば、ぜひもう少しだけ踏み込んで、事務局の方からお話しただけたらと思うが、何かあるか。

(事務局)

- ・ アンケートの中で、私は子守りができる、時間帯を合わせて見守りができるなどの前向きな意見が出ていたのは、資料を見ていて非常に良かったと感じている。
- ・ 資料では、スマートシティという技術的ところがフォーカスされており、その部分はもちろん大事だが、困っていること、地域の課題の解決に技術を使うということに、地域住民の方の参加や受容が非常に大切だと思っている。

- ・ 今回のワークショップやアンケートの内容は、すべてが技術のことではないが、みなさんから前向きな意見をいただいているということは、心配のご意見もあるかもしれないが、技術を導入する時にも、やってみようということで前向きに捉えていただける素地があるのかと思っている。そういうところが非常に心強く、私がアンケートを見た感じでは、これからつながる内容になると思っている。スマートシティのモデル地区として考えているところもあるので、その課題を技術的なところに結び付けていけるかどうか。やはり住民の方だけではまだすぐに解決策が出ないので、こうしたところを市や協議会、民間事業者の方々の考えや知恵をまとめながら、うまく具体化していければと感じている。

(会長)

- ・ 確かに私もスマートシティ協議会など参加することがあるが、ここまで地元から意見が出ているケースというのは非常に少ないように感じている。
- ・ 地元からここまで積極的な意見が出ているのは本当に珍しい。特に遠石地区とか周陽地区で地元の歴史をととても大切にしていることや、そこから子育ての支援なども自分たちでこのようにやっていきたい、あるいは緑地のところが古くなってきたのでもっと今風に使いこなしていきたいなど、非常に具体的な意見がワークショップで出ていた。こうした意見が出てくるところ自体が周南市のモデル地区の大きな特徴である。我々が今回認識すべき非常に重要な点だと言えるのではないかと思う。
- ・ あとはみなさんの熱意をどうやって具体的な事業に結びつけていくのかということが、今後の議論の中心になってくると思うが、ぜひご意見があれば手を挙げていただきたい。

(委員)

- ・ アンケートの設問としては、自分にできることはあるか、周りで一緒できる人や団体を知っているか、情報が見える化できればよいかなどの質問だったのか。

(会長)

- ・ 設問についての問いなので、事務局から回答をお願いしたい。

(事務局)

- ・ おっしゃられたとおり、今日の資料の4~6ページにある。回答欄としてはそれに補足して書いているが、例えば4ページであれば地図上に線を引っ張っていただいて、ここでこういうことをしているとできるだけ具体的に書いてほしいということをお願いしている。5ページでも、実際に自分がどういうことができるか

という具体例を書いてあるだけと思うが、回答欄と同じと思っていただいてもかまわない。

(委員)

- ・ 会長が言われたように、質問に対しての回答が非常に充実しているので、どのような質問があったのかと逆に思った。
- ・ 第一回のワークショップ、第二回のワークショップを経験されて、今回の三回目はアンケートという形になったが、皆さんまだ言いたいことは沢山あるようで、非常に意見はよく出ていたと思う。
- ・ 一方で取りまとめされるスタッフの方の対応も良かったと思う。ポストイットでみなさんが盛んに議論していた。ここに出ている課題が少しでも解決できれば、スマートシティにつながるものがどのぐらいあるかということもあるが、まずはみなさんのそういったところが改善していければと思う。

(会長)

- ・ まさにおっしゃられるとおりに思う。今聞いていて確かに意見が結構出ているという印象を、改めて資料を読み返してみてもそう感じる。
- ・ この中からいかにスマートシティに繋がっていくものを、きちんと拾い上げるべき物を拾い上げて繋げていくことができればというのがこのアンケート結果から読み取れるところと思った。
- ・ ワークショップを現地で実施して、お子さんから高齢の方まで幅広く集まられて、非常に楽しそうに参加されていたのが印象に残っている。雰囲気が非常に良かったと思う。
- ・ それによい印象を持って、よい雰囲気の中で議論できたことが、ここに出てきている意見に繋がっていると思うので、ここから具体の事業にどう結び付けていくかというところが、この後に議論できればと思う。
- ・ 続いて、企業ヒアリング結果および重点プログラムに関する事業計画について、引き続き事務局の方からご説明の方をよろしくお願ひしたい。

(事務局)

<資料説明>

(会長)

- ・ 具体的に企業の方々にヒアリングを行っていただいて、どう事業に結びつけられるかというところを、資料にまとめていただいた。
- ・ もちろんすべての企業にヒアリングしていないので、もっと非常にマッチングしそうな地元の企業や、あるいは全く別の企業もあろうかと思う。これがすべてで

はないと思うが、一応ひととおりヒアリングをして、このように事業ができるのではないかという、あくまで素案ということでお書きいただいている。

- ・ ただ、事業のところまで落としてみると、何かワークショップでいきいきと地元の方が話していたことから、少し離れてしまうような気もする。ここをいかに結びつけていくことが、我々が議論すべき重要な点だろうと思う。
- ・ ぜひ、ここをどのように解釈すればよいのかを、オブザーバーのお二方から解説いただくのが適切だと思う。これはこう考えればというようなアドバイスをよろしく願いたい。

(オブザーバー)

- ・ 今回のワークショップの中で、かなりいろいろな皆様から意見をいただいていると思う。
- ・ その中で事業のところに行く、各企業の方からヒアリングされている項目が、技術についてとスマートシティに対する意見と進め方ということで、企業からご提示いただいている内容に関しては、モデル地区のみなさんが思っている課題や実現したいことに踏み込んだ形では、まだないという気持ちが少しある。
- ・ 技術という観点では、例えば先ほどご説明をいただいたイメージに関するところで、いろいろなAIの技術等が発展してきている。コストに関しても、しっかり作りこんでというよりは、スモールかつアジャイルでというご意見をいただいている。
- ・ 今後の事業の進め方へのいろいろなご意見の中で、まず何かを設定して動かしてみることは当然必要だが、住民の方がどういうことを実現したいと思っているかをまず主題に置いて、それが最新の技術に必要なのかも検討した上で進めていく方がよいのではと感じている。
- ・ 実際に技術というか、スマートシティを実現できるものについては色々トライアルしていくべきだと思う。逆に今いろいろ提供いただいている技術については、実証されているものでもあるが、実現しようと思うと既存であるような考え方や仕組みでは足りない部分もおそらくいろいろ出てくると思う。そういった観点でも住民・市民の方がこうなったら満足するということを入れた上で、どういった仕組みが必要なのかということ、技術を持っている企業の方や大学の先生方を含めて連動しながら進める方がよい気がする。

(会長)

- ・ 私の感覚にも非常に合うコメントで、やはり地元の方が本当に何をしたいかと思っているところに合うものと考えていくことが重要というのは、まさにおっしゃられるとおりのことだ。

(オブザーバー)

- ・ 8 ページ目を少し見ていただければと思う。私が感じていること、結果的にいま話されたことと同じことを言うかもしれないが、私もここ1年間周南市さんとお話させていただく中で、課題と技術を結びつけるというのはどういうことなのかを、ずっと悩みながら考えてきた。いろいろ課題が書かれているが、要するに、ここに書かれているものや前のページでもいただいている市民のみなさんのご意見を頭の中でイメージしながら、結果的に何がどう嬉しい状態になるのか、どうウェルビーイングに繋がるのかということに思いを馳せることがとても重要なのかと思った。
- ・ もうひとつは、技術のところ。先程のヒアリング等でいただいたものもあるが、技術を見て何の価値がこれで生まれることになるのかを考えるようにしている。
- ・ そのことと、その課題を解決すると何が嬉しいのか、が繋がれば、具体的なテーマや、ユースケースに繋がってくると思う。そのストーリーやイメージがいまひとつぼんやりしたままのものはやはり繋がっていないので、先ほど羽藤会長がおっしゃったように、少し何か乖離があるのではという感覚を生むのではではないか。
- ・ つまり、その課題と技術の適用、繋がりというところを、より密接度を増すことができれば、よい形の取組ができるのではないかと思う。
- ・ 最初に会長がおっしゃったように、これだけ市民の方から具体的な生の意見をいただけるケースが非常に少なく、よいことだとおっしゃっていたので、その部分がしっかりと揃っているということは、技術の方を照らし合わせて繋ぐ努力をした時に、よいものが生まれる可能性が非常に高くなるのではという感覚も受けている。
- ・ そういったものの繋ぎ込み、磨き上げ、技術を持っている方の更なる調査等も含めながら、価値をよくしていければと思っている。現時点でそれが少し荒っぽく見えるのは、どのような場合でも同じで、そこからみなさんとの対話で議論を深める中でよいものができ上がってくると感じている。

(会長)

- ・ まだ繋がっていないという印象を持ったということか。

(オブザーバー)

- ・ 例えば8 ページ目の下で言うと、課題のところに書かれている、人流を調査するというのが、一見イメージが付きづらい。人の流れを調べて、何の価値が生まれるのかというところは、単純に可視化のことをおっしゃっているからだと思うが、少しイメージできない。課題と施策を一瞬見た時に繋がりがあのかないのか、少しピンと来にくい感覚である。

- ・それが、その後ろ側にある価値になるものが見えていれば、より具体的にイメージできるということもある。そういったことが、いろいろなところに少しずつ散見されている状態で、小慣れているとはまだ言えないところがある。

(会長)

- ・確かに技術の内容としては間違っただけでなく、きちんと整理されているが、やはりこれをワークショップに参加された方が見てもどのように問題が解決されているのか、どう嬉しいのかというのは分からないところなので、そこを詰めていく必要があるのではというところは、まさにご指摘のとおりと思う。
- ・ほかの委員の方からぜひ一言ずついただけたらと思うが、いかがか。地元の大学として、今回は教育プログラムの中にデータサイエンスやスマートシティのものをそのまま入れていくこともありえるのではという話もあったが、何かご意見があればお願いしたい。

(委員)

- ・おっしゃったとおりで、授業の内容に繋げていくというのは全部できると思う。
- ・それと事業計画の前の話にあったが、地域の意見で大学の学生はどうかという意見が多かったので、その辺りの意見を吸い上げていけば大学としてはいろいろな事ができると思う。
- ・だからこの技術の方に関しては、そのデータさえ揃えれば、それを分析するというのも今後できると思うので、うまくその辺りからこの地域の課題のほうに繋がっていくような道筋ができれば、大学としてはいろいろ協力が可能かと思った。

(会長)

- ・大学の授業で使えるような周南緑地や遠石地区などの何らかのデータがあれば、授業で使って地元の方々と若い方々が一緒に課題解決の提案をしていくような授業ができそうというイメージか。

(委員)

- ・実際のデータがあれば、それを使って分析などができる。実際にそのような授業が存在するので、地域の方でデータを使って何か問題を解決していくことはできると思う。

(会長)

- ・市が既に持っている地籍や都市計画基礎調査のデータがいろいろあると思うので、そういう既存のデータをぜひ大学と地域と一緒に共有して、皆で考えるとい

うようなことは、まさにスモールスタートということを事業者の方も書かれていた。地域のみなさんと大学などが一緒にやれるようなひとつの事業といえるので、ぜひ考えていければと思う。

(委員)

- ・ 事業計画の素案、8ページ以降だが、やはり気になったのはハード対策というところである。こういったことをするにあたり、ハードなことが必要となるとやはりお金がかかる。それに整備するのにどのくらい時間がかかるかもなかなか見当が付きづらい。前の一回目に自分が言ったとおりに、できること、どこから手を付けていくかの選定が、これだけの意見があると難しいのではないか。
- ・ どこを優先するかを決めていくというか、できる事から進める必要があるのかとは思った。ローカル5Gの基地局整備などは、すぐできるかというとなかなか難しいだろう。逆にウォーキング・ランニングステーションの設置は、簡単なものであれば、経費も少なくでできるのかというところもあった。
- ・ ウォーキングのポイント付与というのがあったが、これはおもしろいと思った。ポイントを付与することで、市内の公共施設、例えば動物園やそういった所をポイントで入園ができる。そういうもので、ウォーキングを勧めるのに、逆にお得になるということを押していけば、市民の方にも評価がよいと個人的には思った。

(会長)

- ・ この優先順位付けというのは、確かにどう決めていくかが、横展開して行く上でも非常に重要になってくると思う。
- ・ ただ、やはりワークショップや個々の事業者の方の意見を聞いてみても、まず始められて効果が実感できるものという条件で、予算的なところもそれほどかからないようなものは、最初に始めてみるプライオリティは、高いのではないかと思う。
- ・ それが動き出した後に、基盤となるものを、どのように中期的、長期的計画の中に位置付けて予算を確保していくのかというところに向かっていくと思う。
- ・ ハード整備の中には、地元のワークショップでも公園の施設が若い人の活動からすると、少し古くなっているのではないかという意見もあった。そういったところは、多少お金がかかるかもしれないが、更新の時期にきていると考えれば、導入の可能性はあるし、意識も高まっていることだと思う。そこでスマートシティをうまく組み合わせることができれば、効果があると思うので、少したたき台を出して、地元の方々とも協議しながらだと思う。
- ・ 事務局からこのプライオリティ付けについて、何かご回答できることがあれば、是非補足いただければと思うがいかがか。

(事務局)

- ・ 住民の方のそれぞれ思いがあって、いろいろなご意見いただいたと思っている。それはそれでありながら、やはりモデル地区としてやっているの、ある特定の分野のことだけここでやるということであれば、モデル地区という形で進めなくても別に構わないと思う。モデル地区としては、複数の分野を組み合わせる価値を生むということを一つの事業としての目標にしている。
- ・ 先ほど会長がおっしゃられた、効果が実感できて、そこまでの予算がかからないものというのはあると思う。
- ・ 複数の分野での連携というものが視野に入ってくるような取組は、全部ではないが、そういったものをいくつか入れる取組として優先順位を上げると、効果を検証する意味でもよいと思う。モデル地区として取り組んだ意義が出てくるのではないかと考えている。
- ・ あとは市として、例えば子育ては大きな政策課題としている。当然、行政として安心安全は欠かせないので、行政として求められるところと市として大きく方針を出しているところの分野については、もちろんみなさんのご意見を聞きながらだが、優先順位付けとして加味しながら検討していければと考えている。

(会長)

- ・ 複数の分野というのは非常によい視点だと思う。高齢者の方と子供たち等、いろいろな視点があると思う。そういう視点で見ていくと、確かに浮かび上がってくる気もするので、少し議論しながら判断していければと思う。

(委員)

- ・ 高齢者の方が情報を受け取る方法がスマートフォンやタブレットなどの活用かと思うが、やはり高齢者の方などは、なかなかそういうものにハードルが高い。そういったものを持ってないという方もたくさんいらっしゃると思っている。
- ・ 地域や高齢者を対象にしたスマホ教室もあるが、自分のスマートフォンを持って参加してくださいという形のものが多い。スマホやタブレットを買う前に、配布という形になると難しいと思うが、例えばスマホ教室みたいなのに行くと、少しタブレットを触れる、少し使い方が分かるというような、親しみみみたいなものがあると、慣れて使いやすくなるかと思っている。
- ・ もし既に、そういうことをしているところやされているというのであれば、教えてもらいたい。そういう事があれば、高齢者にとっても、スマホも身近になってくるかもしれないと思った。そういうものが身近になれば、データの受け取りも、皆に行き渡ると思って述べさせていただいた。

(会長)

- ・ とてもよいアイデアである。例えば、歩きのポイントのプログラムに参加したら、そこでスマホや歩行計の使い方を教えてもらえる。それでポイントが溜まってくることで、またその機器のつかい方を覚えた方が、そういうものを購入いただくとか、身近につけていただくようになる。そのようなプログラムに参加する際に、デバイスの使い方の講習会も一緒に実施することは、すごく底上げに繋がる。
- ・ そうしたところを含んでいないと、スマートフォンを持っている人でなければできないスマートシティはあまり意味がない。素晴らしい指摘だと思う。
- ・ 地元の方のワークショップの中でもそういう意見も出ていたと思う。アンケートでもスマホの使い方だったら教えられるという意見もあったので、ぜひそういったことも、この周南のスマートシティの中で取り入れていければよいのではないか。

(委員)

- ・ 私も代替アンケートの回答をさせていただいたが、5ページの自分にできると、一緒にできる人やお店・団体というところで、いろいろなご意見があって面白いと感じた。
- ・ 実際にこの左側『自分にできること』と右側『周りで一緒にできる人、お店、団体』とを掛け合わせて、例えば小中学生を対象にしたお菓子作りやお菓子教室を、徳山大学の学生さんや高専の学生さんと一緒にしたり、遠石地区の自治会や体育振興会の方と、ウォーキング体験や子どもとウォークラリーをしたりというようなことを掛け合わせると、非常に望ましい未来というか、ワクワクする楽しい未来が待っているのではと感じている。
- ・ 実際の事業計画のところ、我々は体育協会なので、スポーツというところに注目しているが、ウォーキングというのがひとつキーワードと思っている。
- ・ 実際にいろいろな付加価値を付けながら、ここにも出ているが、バーチャル空間を作成するとか、とても面白いと感じた。ただ実際にバーチャル空間を作成して、それを疑似体験して、実際にその方の足が外に向くか、実際に歩いてみようと感じるのは不明なところ。あくまで例だと思うが、その疑似体験だけで終わるのではないかと、そういうことを感じた。

(会長)

- ・ お菓子づくりとウォーキングなどは何か繋がりそうな感じがする。遍路をした時に歩いている途中で、近所の方がお接待と言って作ったお菓子を出してください。そうすると歩きとお菓子作りが繋がってきて、お互い参加した方がまたポイントになってくるような仕組みは何か繋がるととても嬉しそうに感じる。

- ・ レシピなどもネットの中で共有できると食べた人が家に帰って、作ってみようとしてどんどん繋がっていくような可能性もあると思う。
- ・ 単にそれぞれがバラバラに活動しているのではなくて、互いが繋がりがあって、それがメタバース的な世界の中で、さらにまた情報が日常の暮らしの中で使えるような仕組みは、多分この土地であれば、皆のつながりの強さの中でできそうな感じもする。
- ・ 歩きということを基本にした、いろいろなプログラムをまずやってみるあたりは非常に可能性があると思った。

(委員)

- ・ どういうところがスマートシティになったのかを地区の方に思っただけのかということだと思う。
- ・ 安心、安全で学びの交流があって健康的というところだと思うが、野犬の情報提供がリアルに分かったから安心なのかということがある。野犬をどこかにまとめて、この辺りは安心して歩ける、というところを作った方が早いのではないかという気がするが、それがスマートシティになるのか。人が歩いているところの電気が自動的につくのがスマートシティなのか。失礼かもしれないが、スマートシティというところから考えると少し違うのかと思うことがある。
- ・ 野犬が今どこに居ることがわかって、自分が居る場所で野犬がセンサーか何かでアラームが鳴るのであれば有効だと思うが、少しその辺り具体的な話になるかもしれないが、ここに書かれているものをあまりに勧められてもどうかというところもある。
- ・ 当然、地域の方のヒアリングやワークショップで、野犬の話が周南ではいちばん大きな問題と言うのはわかっているが、無理矢理スマートシティに結び付けるのもどうか思ったりする。
- ・ その他についても、スマートシティというのはみなさんがどういうイメージを持たれているのかということもあるが、やはり先ほどもあったが、いろいろなデータをいかに使って、市民の方に有効に何かに使うとか、そういったことはスマートシティに近くなるのかと思う。進んできてからの話になるが、安心安全というところを、もう一度スマートシティというところで考えていただいたらよいのかと思った。

(会長)

- ・ 非常に的確なご指摘だと思う。システムは作ったが、情報の更新周期が遅くて全然役に立たないとか、現実の不安に思われていることに対して届かないような情報というのもよくある。軽々にシステムの実装というところに行くのではなくて、本当に地元で何が求められているのかという出口のところ、あるいはみんな

で議論するときにデータを使って議論していくところに注力するということころは、まさにご指摘のとおりと思う。

- ・ それでは非常に素晴らしい意見を皆様から頂けたので、最後に3つ目の議題の方を事務局の方からご説明をよろしくお願ひしたい。

(事務局)

<資料説明>

(会長)

- ・ 各地のいろんなタイプがあるということで、首都圏の方はかなり企業が主体となったような協議会の進め方があり、あるいは松山市のように行政が主体となったようなやり方もある。
- ・ 今までこのモデル地区でやってきている感覚としては、周南市のモデル地区では、意識が高い市民の皆様のご参画をワークショップの時点で得ているので、このいずれにもあまり当たらない周南市独自のやり方、すなわち、市民の方々や大学生の皆様のそういった地元の方々の活動を中心にした協議会のあり方というのが、一つ可能性としては浮かび上がって来ているようには感じている。
- ・ ただこれも地元の皆様のご意見を聞きながらということで、事務局としても原案ということなので、進め方についてぜひ皆様からご意見があれば、お伺いできればと思うが、どなたかご意見いかがか。
- ・ おそらく、東京でやっているようなことをそのまま持ってきて、あまりうまくいかないと思う。地元の方々があまりやる気がないところで、企業や行政が突っ走っていても全然うまくいくわけがないので、地元の大学やあるいは地元のみなさんが一緒にできるようなやり方をやっていくというのが、周南市なりのやり方としてよいのではないかということだが、大学として進め方について、何か考え方があれば是非と思うが、いかがか。

(委員)

- ・ 市民のみなさんが積極的に参加されているというのもあるが、いろいろな意見を出してもらって、それに大学が乗るというののもひとつの形だと思う。それで全体を取り仕切るというような、松山市のように公・民・学連携を組織して、これと同じというわけではないが、こういうやり方でもよいかと思う。

(会長)

- ・ 確かに松山市の場合、拙速に行政主導と言ったが、地元の大学がかなり若い学生さんが地域に入っていてやっているということで、非常に活性化しているところもある。こういうやり方は、ワークショップのときに若い学生さんが結構いろいろ

ろ話していて盛り上がり地元の方々とも非常によい雰囲気だったので、やり方は結構参考になると思った。

- 今日未消化のところもあろうかと思うので、資料をお持ち帰りいただいて、またご意見を事務局にお寄せいただけたらと思う。まずもってワークショップやアンケートの意見は、対象となっている地域らしさが出てきている。多様な意見が出てきているというのが、非常に大きな特徴だろうと思う。当事者意識もほかの地域に比べて、非常に高いものだったと言える。
- 一方で、それをスマートシティというところに落とし込もうとすると、専門のオブザーバーのお二方からもご意見あったように、まだそれを市民の方が見て、すぐに納得がいく感じにはなっていないところがあるので、ここをどう繋げていくかということ、さらに事務局と協議しながら具体的な形を作っていくことが大事と思った。
- ただ、ワークショップの中で、歩きを生かした取組や、運動の仕方が今変わってきていること、通学の時間に僕たちも一緒に歩く、あるいはポータルサイトを作りたいとか、非常に具体的な意見は出ていたので、進められるところの優先順位を判断しながらやっていく。この際に複数のことを重ね合わせるようなものをできるだけ優先させて、例えば大学生の人たちと地元の方々のコラボレーションのような事を、例にとってまず始めてみることを、念頭に今年度はまとめて、また次年度に向かっていければということが今日のところのまとめだと思った。
- それでは事務局の方に進行を戻させていただく。

(事務局)

- それでは委員の皆様、長時間にわたりありがとうございました。以上もちまして、第3回周南市スマートシティ推進協議会を閉会させていただく。お疲れ様でございました。

以上